

宮崎

地域との繋がり

3月27日、ゆめ風基金の総会がZOOMで開催され、初めて参加させて頂きました。自己紹介で八幡さんから「宮崎は永山さんのはずが若い女性になつてる」と前置きがあり、自己紹介をしました。総会后、永山さんにゆめ風を知ったきっかけ、いつからネットみやざきができたのか話を聞きました。宮崎で2005年に起きた台風14号のときに八幡さんが支援に駆けつけて下さり、宮崎で災害が起きたときの災害拠点を作るためにネットみやざきを立ち上げたと聞きました。

現在私は、ヤッドで活動して4年目になります。ヤッドの活動と共に自立支援協議会の災害について協議する部会で月一回会議に参加したり、地域の地区社協の理事になり、障害当事者の立場から災害についての勉強会や研修会等で発信をしています。

自立支援協議会に入る前までは「災害が起きたら助からないだろうな」と命を諦めていました。ですが、協議会で障害者（要配慮者）の災害対策について協議する中で、自助・共助・公助という言葉や自治会や民生委員の役割等、様々なことを知る中で地域との繋がりの大切さを感じるようになりました。コロナ禍になり、より地域との繋がりが希薄になる中どうすれば誰も取り残さないようにできるか、皆で考え、様々な視点から知識や知恵を出し合っていて、いつ起きるか分からない災害への備えをしていくことの必要性を感じます。

障害者自立応援センター YAHIDO (ヤッド) みやざき 森 愛実



ゆめ風ネットからこんにちは



ゆめ風ネットしまね 太田 明夫

つながる・つなぐ・つながり

熊本の大震災から5年、じつは熊本と島根は今もずっとつながっています。くまもと障害者労働センターの代表・くらまんと倉田哲也さんと島根県各地と直結。そしてもう一つ、震災直後、チームで訪問したある男性です。その彼について少し…。震災後、時々電話がかかるようになりました。いろいろ思い悩んで、焦りが募ると電話。何を話すでもない。傍目にはそんな中身で？と思ふような話題です。その辛さを吐き出す「器」みたいな立場とでも言えるでしょうか。

そこにコロナです。彼を悩ませる問題がウワツと出てきた。私は私で、そのコロナでリモート会議の日々でした。ふと思いついて、彼にビデオ通話を提案しました。これまで声だけだった相手と、顔を見ながら話す。彼にとってはけっこう高かったはずのハードルも、意外にすんなり。声も大きくなり、顔を上げ視線を合わせて話せるように。

そんな時、島根では対処できない事態が生じ、コロナ禍の中、家庭訪問を繰り返しました。と言っても、これが今回番伝えたい「リモート家庭訪問」。

どうしても複数の行政の力が必要でした。島根の私が電話口で説明しても「個人情報保護」の高い壁！とにかく「度家庭訪問を」と説得して、その訪問時に私がリモートで立ち会う。訪問者への事情説明で彼が困ったら助言します。「うまく言えとるぞー」と驚くことも。

これは使える！と思いました。直接行けなくても、顔を見て様子を聞けます。行政と「つなぐ」こともできます。コロナ禍の中での、小さな発見でした。

島根